

ありがとう

清音小学校だより



No.5

令和8年6月15日
校長 藤本千登世

「清音ゴミ拾い団」 継続した取組に「わかば賞」受賞!



青少年相談員(山本志津子
さん)より賞状授与

火ばさみやゴミ袋を持って、楽しそうに清音地区を歩く子ども達に出会ったことはありませんか。4年生の時に2名からスタートした、6年生8人(小林凜さん・藤岡隼太郎さん・田中梨乃さん・高島大幸さん・刀禰龍真さん・西林凜登さん・水津七海さん・中原劉己さん)の「清音ゴミひろい団」は、放課後、週に2~3回、清音地区内のゴミを拾う活動を続けてきました。それも、ただ拾うだけでなく、自ら分別し、ゴミ出しをすることまでしています。

これらのことが他の青少年の模範と認められ、県のわかば賞を受賞しました。ゴミを拾うことはできても、継続するというのは難しいことです。おめでとうございます。

今年も菊池省三先生を清音小にお招きしました!!

6月4日、昨年度に続き、菊池省三先生を今年度も本校に招くことができました。菊池先生は「ほめ言葉のシャワー」「成長ノート」など33年間小学校教諭として素晴らしい実践を行ってきて、現在は教育実践研究家として、年間200回を超える講演活動を続けていられています。この日は菊池先生の模範授業と講演会が行われ、市内のこども園・小学校・中学校の教員60名程が参加しました。



菊池省三先生による授業風景

学級活動の模範授業では、冬季オリンピックの写真を教材にした話合いから始まり、「大事にしたいイ(にんべん)のつく漢字ベスト3」を対話を通して決めていきました。菊池先生は、子どもの発言や行為にしっかりと向き合いながら、価値付けをしていられました。6年児童に、「本気の拍手をしよう」「やる気の姿勢」「一人一人違っていい」等、児童の心を揺さぶりながら授業が進んでいきました。私たちは、授業の中で一人一人の良さを伝えること、コミュニケーション力の大切さ等を学びました。また、「授業づくりは学級づくり」と言いますが、**温かな学級づくりの大切さ**を改めて感じた授業でした。菊池先生の授業を受けている子ども達の顔は、笑顔とやる気にあふれていました。菊池先生はそんな空気の6年の学級を「**かるやかな学級**」と言って褒めてくださいました。

ほめ言葉の「さしすせそ」

さ・・・さすが! さいこう!
し・・・しっかりしているね!
しらなかった!
す・・・すごい! すてき! すばらしい!
せ・・・せかいいち! せいちょうしたね!
そ・・・それいいね! そうだね!

「ほめる」ためには、子ども達一人一人をよく見て、機を逃さず伝えることが大切です。叱るよりも褒めることの方が難しいのです。

この貴重な機会での学びを生かして、清音小教員は、これからも**褒めること・認めることを大切**にしていく気合いにあふれています!!

ご家庭でも「ほめる」ことを意識した声かけをしてみてください。

☆ほめ言葉の後に「ありがとう」をつけると、ほめる達人になれるそうです。